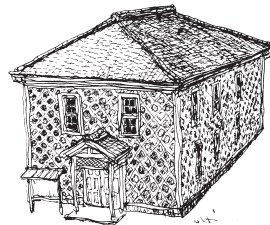


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のルビッチ、ディベイトを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●塾長

清家

篤

新人生の皆さんへ

今年も慶應義塾は大学院、大学、一貫教育校に新入生を迎えました。慶應義塾を代表して皆さんの入学を歓迎し、お祝いいたします。御入学まことにめでとうございます。

新入生の皆さんはこれから長い人生を送ることになります。例えば高校を卒業し大学に入学する新入生の多くは18歳ですが、その平均余命（これから生きる平均年数）は男性で約62年、女性で約69年と、少なくともあと60年以上は生きるのです。

過去の60年も大きな変化の時代でしたが、これからの60年はさらに激動の時代になるでしょう。変化の時代であればあるほど、新しい状況を自らの頭で理解し、問題を解決するという、自分の頭でものを考える能力が求められます。それは学問によって知性を磨くことで得られるものです。

また豊かな長寿を全うするためには、人柄を磨くことも大切です。たとえば「長寿プロジェクト（The Longevity Project）」という、アメリカで1500人余りの個人を長期にわたって追跡調査した研究がありますが、その結果は「真面目（conscientious）」

な人、また「他人を助けたり援助（help and provide support for others）」したりする人ほど長生きすることを示しています。

また別の追跡調査による実証研究でも、真面目さや協調性といった人柄の良さが、個人の職業人生に明らかにプラスに働くことが確認されています。

学問によって知性を磨くこと、何事にも真面目に取り組み他人に温かく接して人柄を磨くこと。どちらも長寿と職業人生の成功をもたらす鍵であることが、科学的にも実証されつつあるわけです。

知性と人柄を磨く、これを福澤先生の言葉で言えば「智」と「徳」を磨くということになると思います。幅広く学問を学び、奥深く学問を究め、スポーツや芸術などの課外活動に積極的に参加する。これによって智と徳を磨く機会が慶應義塾には縦横に存在しています。皆さんには、どうかその機会を存分に生かして、長い人生を豊かに生きることのできる力を養ってくださいることを願っています。